

令和6年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち  
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果  
(中国四国農政局)

都道府県名	鳥取県	
項目		
(1) 会議等の名称	市町村会議	
(2) 日付	令和6年11月22日（金）	
(3) 場所	中部総合事務所（倉吉市）	
(4) 参加機関と人数	鳥取県農林水産部畜産振興局畜産振興課（2名）、鳥取県教育委員会事務局体育保健課（1名）、鳥取県学校給食会（1名）、市町村教育委員会学校給食担当（14名）、大山乳業農業協同組合（2名）、鳥取県牛乳普及協会（2名）計22名	
(5) 議題	①R6年度学校給食用牛乳供給事業について ②R7年度学校給食用牛乳供給事業について	
(6) 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度学校給食用牛乳供給事業の実施状況報告</li> <li>・酪農、乳業情勢の近況について説明</li> <li>・R7年度学校給食用牛乳供給計画について説明</li> <li>・鳥取県学校給食用牛乳の価格改定の動向について説明</li> <li>・学乳のオンライン発注（Web発注システムの導入）について説明</li> <li>・その他（日々の納品先サンプル添付1個の廃止について説明）</li> </ul>	
(7) 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度の実施状況とR7年度の計画について共有が図れた。</li> <li>・県の方針について共有と、包材資材、製造コスト、配送コストの高騰について現状認識がなされた。</li> <li>・価格改定の動向について、その背景と酪農・乳業情勢についての理解が得られたが、価格改定の各市町村への情報をもっと早くならないか指摘があった。</li> <li>・学乳のオンライン発注（Web発注システムの新規導入）についてアンケート結果、利用方法、運用開始に向けたスケジュールについて共有が図れた。</li> <li>・各給食センター、学校に対する納品時の無償サンプル添付1個の廃止について説明、理解が得られた。</li> </ul>	

都道府県名	島根県	
項目	学校給食用牛乳供給推進会議	
(1) 会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進会議	
(2) 日付	令和6年9月13日（金）	令和7年1月21日（火）
(3) 場所	島根JAビル（松江市）	島根JAビル（松江市）
(4) 参加機関と人数	島根県農林水産部畜産課（2名）、島根県保健体育課（1名）、島根県学校栄養士会（1名）、島根県学校給食会（2名）、島根県農業協同組合（1名）、学乳供給事業者（4名）、島根県牛乳普及協会（2名）計13名	島根県健康福祉部薬事衛生課（講師1名）、島根県農林水産部畜産課（1名）、島根県学校給食会（2名）、島根県農業協同組合（1名）、学乳供給事業者（5名）、島根県牛乳普及協会（2名）計12名
(5) 議題	①R6年度学校給食用牛乳供給推進の進捗状況について ②衛生管理基準に関する研修について ③学校給食用牛乳供給における要望・意見交換について	①衛生管理基準に関する研修 ②学校給食用牛乳供給における要望・意見交換について
(6) 概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年間計画と1学期の実績について説明を行った。</li> <li>②講師と開催時期について説明を行った。</li> <li>③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度同様、今年度も島根県牛乳普及協会から〇市教育委員会へ冷蔵庫導入への働きかけを行ったことを報告。</li> <li>・配送の現状について、2024年ドライバー問題により、ドライバー確保が難しい。半分校だけでも前日配送ができればドライバーの確保率が上がるので、関係者と協議が必要である。一方、学校関係者は前日配送について、夜間の管理に不安を感じている。温度記録計や鍵の設置に補助をというのも1つの方法だという意見も出た。</li> <li>・昨今、台風や地震など大規模の災害が多く、従業員が出勤できない、取乳車が動かないくらいの大災害も懸念されるので、賞味期限内の牛乳は安全という認識を浸透してほしい。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①牛乳に係る法規則等、事例紹介、食品中の低温増殖性食中毒菌の情報提供があった。</li> <li>② <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食が無償化された場合、この事業への影響が不安。</li> <li>・〇市の教育委員会や学校へ訪問し、隔日、前日配送を依頼した。前向きな検討をしてもらえる感触があった。</li> <li>・県及び教育庁に冷蔵庫導入の予算検討を意見。</li> </ul> </li> </ul>
(7) 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学乳事業についての理解</li> <li>・学校給食用牛乳供給について課題の共通認識、情報共有</li> <li>・万が一の場合は、生乳を他のメーカーに運び、学校給食用牛乳を優先的に製造することで再認識。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容とスケジュールを確認し、適正な事務処理の認識共有。</li> <li>・供給事業者全員が、R6年度中に衛生管理に関する資格を取得する。</li> </ul>

令和6年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち  
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果  
(中国四国農政局)

都道府県名	岡山県	
項目		
(1) 会議等の名称	第1回学校給食用牛乳供給推進会議	第2回学校給食用牛乳供給推進会議
(2) 日付	令和6年7月19日（金）	令和7年3月19日（水）
(3) 場所	岡山県学校給食総合センター（岡山市南区）	岡山県学校給食総合センター（岡山市南区）
(4) 参加機関と人数	岡山県畜産課（1名）、岡山県教委（1名）、岡山市教委（2名）、津山市教委（1名）、岡山県学校栄養士会（1名）、おかやま酪農業協同組合（1名）、オハヨー乳業（2名）、山陽乳業（2名）、蒜山酪農（1名）、岡山県学校給食会（5名）計17名	岡山県畜産課（1名）、岡山県教委（1名）、岡山市教委（1名）、津山市教委（1名）、岡山県学校栄養士会（1名）、おかやま酪農業協同組合（1名）、オハヨー乳業（1名）、山陽乳業（2名）、蒜山酪農（1名）、岡山県学校給食会（5名）計15名
(5) 議題	①説明 (1)R5年度事業報告について (2)岡山県学校給食用牛乳供給推進業務方法書について (3)R6年度事業計画について ②意見交換 (1)配送効率化に向けた実証の取組の実施について (2)その他	①説明 (1)R6年度事業進捗状況について (2)R7年度事業（国）について (3)R7年度実施計画について ②意見交換
(6) 概要	① (1)R5年度持続的生産強化対策事業推進費補助金等（学校給食用牛乳供給推進）実績報告書について説明。 (2)岡山県学校給食用牛乳供給推進業務方法書について、改正箇所を説明。 (3)R6年度事業計画、R6年度持続的生産強化対策事業推進費補助金等（学校給食用牛乳供給推進）交付申請書、R6年度年間スケジュールについて説明。 ② (1)配送効率化に向けた実証の取組の概要を説明。意見や実施希望等は特に無し。 (2) ・製造ラインの老朽化のため、オハヨー乳業がR7年度から紙パック牛乳の供給をやめて、ビン牛乳に一本化する旨の説明があった。それに対し、学校の保冷库や児童への返却時の指導等で混乱が発生しないよう、県教委と連携して情報共有に努めてほしいとの意見が出た。また、ビン供給不可の学校については、山陽乳業へ協力を要請。山陽乳業はオハヨー乳業の輸送ルートを利用するなど、連携を図る意向を示した。 ・牛乳が飲めない中学生が増えているので、今後牛乳選択制になるかもしれない。	① (1)R6年度学校給食用牛乳供給事業進捗状況（2月分）について説明。 (2)学校給食用牛乳に関する、農林水産省畜産局牛乳乳製品課のR7年度の予算の概要について説明。 (3)R7年度学校給食用牛乳供給推進実施計画について説明。 ② ・乳価について、7～8月頃に向けて、期中値上げが検討されているが、学乳に関しては期中値上げ無しの方向でお願いしているところ。 ・供給区域について、県畜産課で合併を検討しているところ。供給業者からは、配送経路等を考慮した区域割をお願いしたいとの要望があった。 ・供給業者から、県の見積徴集について、岡山県は1月後半に行っているが、時期が早いと経費の積算が見込みの経費で積算せざるを得ないので、日程の見直しをお願いしたいとの要望があった。一方、見積徴集により、保護者負担額、業者と供給形態等が決定するため、早い方が良いとの意見も出た。 ・供給業者から、見積徴集の予定本数について、学期初めの月の生乳の手配の参考にしたいため、現状の学期毎ではなく、月毎で出してもらいたい旨、要望があった。
(7) 成果	・R5年度学乳事業報告について情報共有。 ・R6年度学乳事業計画及び年間スケジュール等について情報共有。 ・オハヨー乳業のビン供給一本化についての情報共有。	・R6年度事業の進捗状況について情報共有。 ・R7年度事業についての確認。 ・R7年度実施計画について情報共有。 ・乳価の値上げ動向や区域の見直し、県の見積徴集の見直し等について情報共有。

都道府県名	広島県	
項目		
(1) 会議等の名称	学校給食用牛乳供給事業実施計画策定等に係る会議	
(2) 日付	令和6年8月8日（木）	令和7年3月12日（水）
(3) 場所	広島県牛乳普及協会学乳部会事務所（広島市東区）	広島ガーデンパレス（広島市東区）
(4) 参加機関と人数	山陽乳業（株）（2名）、日本酪農協同（株）広島工場（2名）、チチャス（株）（2名）、広島協同乳業（株）（2名）、広島県酪農業協同組合（1名）、広島県牛乳普及協会（1名）計10名	広島県健康福祉局食品生活衛生課食品衛生グループ（1名）、広島県農林水産局畜産課酪肉振興グループ（1名）、供給事業者（9名）、牛乳普及協会（1名）計12名
(5) 議題	①給食用牛乳ストロー（バイオマスストロー）対応について ②全国における学乳事業（離脱）状況について ③広島県（農林水産局畜産課・県教育委員会）へ次年度に向けての学乳入札等の対応要望について ④今年度の学乳事業について（進捗状況等） ⑤R6年度の出前講座要望の状況について ⑥広島県酪農業協同組合主催ミルクイベント協力依頼について ⑦その他	「牛乳衛生講習会」 ～衛生管理基準に基づく食品製造等における注意点について～
(6) 概要	①供給事業者より、給食用牛乳ストローのバイオマス化について、R6年6月に広島県西部地区市町より、県畜産課へ問合せがあったとの報告があった。また、廿日市市の小中学校では、本年2学期より広島県及び廿日市市からの補助により、バイオマス100%ストロー使用とのこと。次年度以降、県内市町からバイオマスストローの要望があれば、県内統一でバイオマス5%ストロー対応する方向で取り組むこととした。 ②R6年度において、県外では3都市が学乳事業から離脱している。同様な事例が県内において発生しないよう、各事業者とも注意深く取り組むこととした。 ③R7年度に向けて、広島県農林水産局畜産課との情報交換（学乳入札への要望）についての学乳供給業者4社としての意見集約（原料乳価格以外の諸経費等の値上げ事項）を図った。 ④資料に基づき、現在の供給本数等の情報を共有した。 ⑤県教育委員会から参画要請を受けて毎年実施している「ひろしま給食推進プロジェクト」出前講座への協力要請並びに現時点での要請のあった学校等を報告した。 ⑥広島県酪農業協同組合が主催するミルクイベントの協力要請を行った。	資料に基づき、県食品生活衛生課より講演を受けた。 ①食中毒の発生状況について ②カンピロバクター・ノロウイルスについて ③食中毒予防について ④HACCPの検証について
(7) 成果	・学乳事業に関わる情報共有を図ることができた。 ・次年度以降の学乳事業対応がスムーズに行えるよう、各供給業者間で確認した。	・今回の研修会により、見落としがちな点及び事故を未然に防ぐための再確認ができた。 ・HACCP検証も見直し変更が必要である。 ・食品を扱う者としての自己啓発ができた。

令和6年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち  
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果  
(中国四国農政局)

都道府県名	山口県		
項目			
(1) 会議等の名称	令和6年度学校給食用牛乳供給推進会議		
(2) 日時	令和7年3月6日（木）		
(3) 場所	防長苑（山口市）		
(4) 参加機関と人数	防府酪農農業協同組合（1名）、やまぐち県酪乳業株式会社（2名）、山口県PTA連合会（1名）、山口県学校栄養士会（1名）、山口県教育庁学校安全・体育課（1名）、山口県農林水産部ぶちうまやまぐち推進課（2名）、山口県環境生活部生活衛生課（1名）、山口県酪農乳業協会（3名）計12名		
(5) 議題	①山口県の学校給食用牛乳の供給状況 ②R6年度学校給食用牛乳供給推進事業の実施状況 ③R7年度学校給食用牛乳供給推進事業について ④その他 (1)学校給食用牛乳の配送の合理化について (2)緊急時の学校給食用牛乳の注文変更等の対応について ⑤R6年度学校給食用牛乳に関するHACCP研修会		
(6) 概要	①県内の実施校数、供給日数、供給人員、供給本数の推移、容器別供給状況、学校給食用牛乳供給における制度、供給価格及び供給事業者について、資料に基づき説明した。 ②事業の趣旨、補助金、事業の内容、農林水産省の交付決定額について資料に基づき説明した。 ③事業内容はR6年度と大きな変更はない旨等を説明した。 ④ (1) ・やまぐち県酪乳業株式会社より、R8年度以降の配送の合理化のため、R7年2月に周防大島町と上関町を訪問し、隔日配送の説明を行った旨の報告があった。他の市町については日程が決まり次第、説明に伺う予定である。上記2つの町ではR8年度から隔日配送にする予定であり、冷蔵庫の用意もそれまでにお願したい。 (2) ・学校給食用牛乳についての緊急時の対応マニュアルは存在するが、コロナ禍以降状況が変わってきており、近年は局地的な豪雨や積雪等で市町単位ではなく学校単位での対応が多くなっている。学校の要望等には可能な限り対応するが、ルールについては再認識してほしい。次年度に改めて緊急時の対応マニュアルを作成し、配布したい。 ・コロナ禍以降、当日の学校給食用牛乳のキャンセルは対応するつもりであるが、どうしても対応できないこともあるのでご理解いただきたい。新しい緊急時のマニュアルは、現在実施している下関市のものを参考に作成予定。 ⑤学校給食用牛乳における健康被害の発生リスクを低減するため、県生活衛生課より講師を招き、供給事業者をはじめ学校給食関係者を対象に、HACCPに沿った衛生管理研修会を開催し、適切な製造工程の遵守及び製造機器の日常的な点検等、安全な食品の製造について認識を深めた。		
(7) 成果	・推進会議でR6年度の事業の推進状況を報告し、学乳事業全体の理解を深め、R7年度の事業計画策定に向けて反映することができた。 ・会議の役割として、事業実施計画の策定、事業評価、課題等の実施が規定されており、意思決定の過程において、意見や助言を充分反映していきたい。 ・学校給食の牛乳に係る本県の課題解決や事業の円滑な実施に向けて、本事業への積極的な取り組みや、牛乳消費の定着・拡大のための問題解決へ向けたご意見をいただき、関係各所の今後の協力を再度お願いした。		

都道府県名	徳島県		
項目			
(1) 会議等の名称	第1回推進会議	第2回推進会議	第3回推進会議
(2) 日時	令和6年8月7日（水）	令和6年10月31日（木）	令和7年3月7日（金）
(3) 場所	徳島県酪農農業協同組合（石井町）	徳島県酪農農業協同組合（石井町）	徳島県酪農農業協同組合（石井町）
(4) 参加機関と人数	徳島県教育委員会（1名）、徳島県学校給食会（1名）、学校長会会長（1名）、保護者会会長（1名）、乳業メーカー（5名）、生産者代表（2名）、徳島県酪農農業協同組合（3名）、徳島県畜産振興課（2名）計16名	徳島県教育委員会（1名）、徳島県学校給食会（1名）、学校長会会長（1名）、保護者会会長（1名）、乳業メーカー（4名）、生産者代表（2名）、徳島県酪農農業協同組合（3名）、徳島県畜産振興課（2名）計15名	徳島県教育委員会（1名）、徳島県学校給食会（1名）、乳業メーカー（4名）、生産者代表（2名）、徳島県酪農農業協同組合（3名）、徳島県畜産振興課（1名）計12名
(5) 議題	①R5年度持続的生産強化対策事業（学校給食用牛乳供給推進）実績について ②R6年度持続的生産強化対策事業（学校給食用牛乳供給推進）実施計画について ③「物流の2024年問題」に伴う学校給食用牛乳の配送について	①学校給食用牛乳供給体制に関することについて ②学校給食用牛乳供給契約書について ③その他	①R6年度学校給食用牛乳供給推進事業実施状況について ②R7年度学校給食用牛乳供給推進事業の内容について ③学校給食用牛乳供給契約書について
(6) 概要	①供給価格について、R4年度に続き期中改定をお願いしたが、同意が得られなかったことから、改定はなかったことを報告した。 ②事業内容はR5年度同様で、学校給食用牛乳供給円滑化推進と安定需要確保対策に取り組む。衛生管理研修会の開催は省略するが、自己点検結果を記入した自己チェックリストは提出いただくよう依頼した。 ③R6年5～6月にかけて、一般社団法人Jミルクによる「学校給食用牛乳に関する配送コスト低減等事例調査」が行われ、その調査結果について報告した。	①県畜産振興課より、学校給食用牛乳供給事業に係る「物流の2024年問題」説明会の質問に対する回答について報告があった。配送ルートや納品時間について、現状と同様に配送ルートが固定されれば納品時間も決まってくるが、学校側と協議のうえ決定していく。また、自然災害等の対応については、都度協議が必要になることもある。供給本数の変更期日も納品時間により変わってくる。 ②R4年度とR5年度に供給価格の期中改定の要請をうけ検討していく中で、契約者数が多く困難であるため、契約者を集約してはどうかという意見がでた。また、発注オンラインシステム導入を検討していることもあり、契約書を一部変更するため変更案を提示し、次回推進会議で協議することとした。	①R6年4月～R7年1月の供給実績及び進捗状況について報告。 ②事業の目的、事業の内容について説明。柱となる内容はR6年度と同様であるが、安定需要確保対策の掛かりまし経費に係る補助単価が0.45円となったことを報告。 ③第2回推進会議から継続協議となっており、関係機関での検討結果について確認した。 ・受注についてオンライン化するが、全てとはいかないため従来の方法（FAX）も残す。 →供給事業者で違いがあるため実態にあわせて作成する。 ・有効期限内の供給価格の変更について新たに設けるが、まずは協議するという意味合いとなるようにする。
(7) 成果	・事業内容及び供給価格についての理解と情報の共有ができた。 ・配送問題については状況をみながら、コスト低減に繋がるよう務める。	・物流の2024年問題、契約体制等今後の課題となることについて、関係者の理解と情報の共有ができた。	・補助事業についての理解と情報の共有はできたが、契約方法については引き続き検討課題となった。

令和6年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち  
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果  
(中国四国農政局)

都道府県名	香川県	
(1) 会議等の名称	第1回学校給食用牛乳供給推進会議	実態調査及び第2回学校給食用牛乳供給推進会議
(2) 日時	令和6年6月4日（火）	令和7年2月21日（金）
(3) 場所	香川県獣医師会館（高松市）	香川県獣医師会館（高松市）
(4) 参加機関と人数	県畜産課（2名）、県保健体育課（2名）、県学校給食会（1名）、県学校給食協同調理場連絡協議会（1名）、県栄養教諭・学校栄養職員研究会（3名）、県農業協同組合（1名）、供給業者（7名）、県畜産協会（3名）計20名	県畜産課（2名）、県保健体育課（2名）、県PTA連絡協議会（1名）、県栄養教諭・学校栄養職員研究会（2名）、県農業協同組合（1名）、供給業者（7名）、県畜産協会（3名）計18名
(5) 議題	①R5年度事業実施結果について ②R6年度事業実施について ③R5年度実態調査結果に基づく安定供給に向けた課題、対応について ④今後のスケジュールについて	①R6年度事業実施状況について ②R7年度事業について ③意見交換・実態調査 ④その他（今後のスケジュール）
(6) 概要	<p><b>【主な意見・質問】</b> <b>配送課題</b> (供給業者3社) ・いずれの社も配送方法に変更なし。R6年度に入り、3～5%コストアップしている。 ・積載・配送はAIを利用し、効率化を図っている。 ・配送時間設定が厳しい学校も未だあり、費用だけでなく問題もある。学乳配送は合理化を目指すのが難しいが、合理化により価格を抑えたい。 ・県内は学乳単独配送のため効率化が難しく、受入側の厳しい条件、待機・拘束時間についてもドライバーから指摘がある。学乳配送ドライバーの高齢化が進み、今後はさらなる人件費アップが考えられる。 ・対面納品が基本だが、施錠をするなど無人納品等の対策を考えたい。 (栄養教諭) ・常温での配送である給食とは異なり、温度管理が必要な牛乳は保管スペースの点からも一括受入はできないので、直接配送となる。学校側の配膳員の勤務時間の問題もあり、午後の受取も難しい。牛乳の価格が上がるのは仕方ないが、給食にかけられる費用が決まっている中で、他の食材を含め栄養価を考えたバランスが難しい。 (保健体育課) ・給食は保護者負担額を含め、市町毎の決定・対応となっており、県下全体での検討の場はない。県立学校は県が決定した経費上昇分のみ負担額を上げている。 (畜産協会) ・配送問題については、アンケート等で引き続き検討する。</p> <p><b>ストローレスパック</b> ・現在、供給業者3社の対応が異なり、入札が難しい。環境負荷の低減につながるものなので、関係機関を交えて検討する場が必要という意見が出た。</p> <p><b>フードロス対策</b> ・供給業者3社とも休校等によるキャンセル等、納品済みの牛乳の返品に苦慮している。市町の給食会毎の対応のため、県下全域でフードロス問題を検討してほしい。</p>	<p><b>【主な意見・質問】</b> <b>安定供給について（在庫管理、キャンセルへの対応など）</b> (研究会) ・本数の変更は、原則2日前の12時までに通知。ただし、学級閉鎖等の急な変更の場合、前日連絡で対応してもらっている。また、翌々日以降の数量調整でロスを出さないようにしていただいている。 (供給業者) ・契約等での明記はないが、同一日付納付の原則があり、端数を廃棄することがある。消費期限内であれば商品は安全であり、フードロスの観点からも、日付混載を了承頂きたい。 (保健体育課) ・変更の通知、混載の問題など、お互いの融通で運用しているが、事前に取り決めとして定めてはどうか。</p> <p><b>配送について（2024対策、コスト上昇への対応など）</b> ・県内全体の状況：一部の島しょ部を除き、当日、各学校への直送を実施。 (研究会) ・センターへの一括搬入は、配送車に保冷機能がないため困難。また、納品時間の変更についても、職員の勤務時間の問題があり困難。 (供給業者) ・物流費はR6年度103.4%上昇している。R7年度は102.2%上昇の見込み。現状のコース編成において、ドライバー不足は発生していないものの、今後においては不透明。今の納品時間を守るためには、車両数の削減、納品コースの効率化など限界がある。今後、前日納品、隔日納品などをエリア単位で検討いただきたい。</p> <p><b>その他（リサイクル、学乳価格等）</b> (供給業者) ・リサイクル材、再リサイクル可能パック素材、バイオマスプラスチック配合など取り組んでいる。 ・サトウキビ由来の植物性素材を使用している。 (研究会) ・牛乳価格の上昇が、給食費を圧迫している。一方で、牛乳は栄養補給の観点から不可欠。 ・牛乳の選択制を望む声が増えてきている。牛乳が体に悪い等の報道、好き嫌い等、理由は様々。 (県農業協同組合) ・乳価は上がったが、酪農家の収益はコロナ前に戻っていない。R6年度の廃業が4戸と厳しい状況は変わっていない。 (供給業者) ・原材料・物流費ともに増加しており、価格転嫁せざるをえない。</p>
(7) 成果	R6年度学校給食用牛乳供給推進事業について理解を得た。	学校給食用牛乳供給推進事業について理解を得た。

令和6年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち  
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果  
(中国四国農政局)

都道府県名	愛媛県	
項目		
(1) 会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進協議会	
(2) 日時	令和6年5月21日（火）	
(3) 場所	愛媛県酪連（東温市）	
(4) 参加機関と人数	愛媛県農林水産部畜産課（1名）、愛媛県教育委員会保健体育課（1名）、（公財）愛媛県学校給食会（1名）、愛媛県学校栄養士協議会（1名）、四国乳業株式会社（4名）、愛媛県酪農業協同組合連合会（2名）計10名 ※愛媛県PTA連合会が欠席のため資料送付	
(5) 議題	①R5年度学校給食用牛乳供給事業実績について ②R6年度学校給食用牛乳供給事業の概要について ③R6年度学校給食用牛乳供給事業計画について	
(6) 概要	学校給食会より、乳価改定があるかの質問に対し、四国乳業から現在まで通達がないため今年度はないが、改定があった場合は協力してほしいと回答。その後質疑・応答なく、承認された。	
(7) 成果	関係機関・団体に対して事業の主旨や内容の周知をすることで、より円滑に事業の推進を行うことができるようになった。	

都道府県名	高知県	
項目		
(1) 会議等の名称	高知県学校給食用牛乳供給推進協議会	衛生管理研修
(2) 日時	令和6年10月15日（火）	令和7年2月26日（水）
(3) 場所	公益財団法人高知県学校給食会（高知市）	公益財団法人高知県学校給食会（高知市）
(4) 参加機関と人数	高知県教育委員会（1名）、高知県牛乳普及協会（2名）、供給業者（5名）、JA高知県（1名）、高知県畜産振興課（1名）、高知県学校給食会（3名）計13名	高知県健康政策部業務衛生課（講師・1名）、供給業者（5名）、高知県牛乳普及協会（1名）、高知県学校給食会（1名）計8名
(5) 議題	①R5年度学校給食用牛乳供給事業実績について ②R6年度事業計画について ③その他	R6年度学乳事業に係る供給事業者向け衛生講習
(6) 概要	①R5年度実績の報告、推進会議の開催趣旨の説明を行った。 ②R6年度計画申請書の内容説明、供給事業者に向けてHACCPに沿った衛生管理研修への参加依頼と、自己工場チェックシートの提出依頼を行った。 ③①、②について、県畜産振興課からR5年度事業実績とR6年度事業内容の説明及びR6年度事業方針の協議があった。 ④ ・各供給業者より、配送時の工夫等の意見交換があった。 ・価格高騰における乳価の今後の動向について説明があった。	HACCPに沿った衛生管理の制度化について、事業者に気をつけてほしい点の説明があった。
(7) 成果	・R5年度学乳事業実績と、R6年度事業内容の把握ができた。 ・配送時の工夫等の業者間共有を行った。	HACCP制度化に対応する確認事項の周知。